

|  |                                |     |      |         |         |       |                |
|--|--------------------------------|-----|------|---------|---------|-------|----------------|
| 授業科目(ナンバリング)   | 言語と文化 B(CA229)                 |     |      | 担当教員    | 佐野 香織   |       |                |
| 展開方法   | 講義                             | 単位数 | 2 単位 | 開講年次・時期 | 2 年・後期  | 必修・選択 | 選択             |
| 授業のねらい   |                                |     |      |         |         |       | アクティブ・ラーニングの類型 |
| <p>本授業は、国際共修として、日本人・留学生が共にディスカッションをしながら進める授業である。</p> <p>本授業は、社会言語学入門として、現代日本社会のさまざまな「ことば」を対象に考察する。そして、出身地、地域、性差、状況等によって言葉が多様に使われていることを学んでいく。受講者一人一人が、自分のことばを問い直し、自分と社会、日本語との関係を考えることができるようになることを目標とする。</p> |                                |     |      |         |         |       | ②④⑩            |
| ホスピタリティを構成する能力   | 学生の授業における到達目標                  |     |      |         | 評価手段・方法 | 評価比率  |                |
| 専門力  |                                |     |      |         |         |       |                |
| 情報収集、分析力   |                                |     |      |         |         |       |                |
| コミュニケーション力   | 社会言語学の基礎を理解し、意見交換ができる。         |     |      |         | 期末発表    | 30%   |                |
| 協働・課題解決力   | 課題遂行を通して、協働で学び合うことができる。        |     |      |         | 課題      | 30%   |                |
| 多様性理解力   | 社会における言葉の働きを理解、分析し、まとめることができる。 |     |      |         | レポート    | 40%   |                |
| 出席   |                                |     |      |         | 受験要件    |       |                |
| 合計   |                                |     |      |         | 100%    |       |                |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明   |                                |     |      |         |         |       |                |
| ことばの分析に関する課題の提出物で 30%、期末発表で 30%、レポートで 40%、評価する。提出物に関しては、翌週の授業内容に反映させる。活動も授業中にフィードバックを行う。   |                                |     |      |         |         |       |                |
| 授業の概要  |                                |     |      |         |         |       |                |
| 日本語を社会言語学の観点から分析し、さまざまなことばとのかかわりや、社会との関係について考える視点を養う授業である。受講生自らが自身のことばの使用を観察し、考え、分析できるようになることを目標とする。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、180 分とする。   |                                |     |      |         |         |       |                |
| 教科書・参考書  |                                |     |      |         |         |       |                |
| <p>教科書：石黒圭（2013）『日本語は「空気」が決める 社会言語学入門』光文社新書</p> <p>参考書：適宜紹介する。</p> <p>指定図書：石黒圭（2013）『日本語は「空気」が決める 社会言語学入門』光文社新書</p>  |                                |     |      |         |         |       |                |
| 授業外における学修及び学生に期待すること   |                                |     |      |         |         |       |                |
| 授業は学生の考え、意見を中心に進めます。授業を聞いて、気づいたこと、考えたこと、調べたことを発言し、積極的に参加することを期待します。  |                                |     |      |         |         |       |                |

| 回  | テーマ             | 授業の内容   | 予習・復習                                    |
|----|-----------------|---|--|
| 1  | オリエンテーション<br>導入 | 本授業の目標、評価、授業の進め方の説明をする。社会言語学の基礎について概観する。                        | 予習：シラバスを読む<br>復習：理論言語学と社会言語学のちがい         |
| 2  | 社会言語学とは何か       | 社会言語学の基本用語を学ぶ   | 予習：社会言語学の定義<br>復習：社会言語学に関わる基本用語          |
| 3  | 地域に根差した言葉       | 地域方言と社会方言 方言の否定・誇りについて学ぶ  | 予習：方言事例<br>復習：方言、標準語、共通語について考える          |
| 4  | 話し手に根差した言葉      | 日本語の場と場面、役割語、待遇表現について学ぶ。  | 予習：ことばづかいとイメージについて考える<br>復習：役割語事例        |
| 5  | 日本語の人称表現        | 日本語の人称表現について学ぶ。   | 予習：自分の人称変遷<br>復習：人称表現と関係性について考える         |
| 6  | 言葉と言語           | バイリンガリズムとマルチリンガリズム、コードスイッチングとコードミキシング、トランスランゲージングについて、日本語を例に学ぶ。 | 予習：自分の外国語使用をふりかえる<br>復習：社会と言語使用事例について考える |
| 6  | 言葉と文化           | 言語相対論、言語特徴、政治的公正性について学ぶ   | 予習：虹の色の違いについて考える<br>復習：課題事例を考える          |
| 7  | 言葉の変化           | 世代と変化、時代と変化、地理と変化、言語の創造性、言語の死について学ぶ。                            | 予習：言葉の正確性について考える<br>復習：言語の生死を考える         |
| 8  | 言葉と政治（1）        | 国語と共通語と標準語、言語政策、多言語主義と複言語主義について学ぶ。                              | 予習：自国の公用語<br>復習：主義の違いについて考える             |
| 9  | 言葉と政治（2）        | ヨーロッパ言語共通参照枠、コミュニケーション能力について学ぶ                                  | 予習：CEFRについて<br>復習：日本における言語参照枠について考える     |
| 10 | 言葉と実践（1）        | 多文化共生社会における論点として「やさしい日本語」について知り、「日本語」を再考する                      | 予習：指定ハンドアウトを読む<br>復習：「日本語」をふりかえる         |
| 11 | 言葉と実践（2）        | 外部講師講演（予定）<br>多文化共生社会における「ことば」「コミュニケーション」                       | 予習：ハンドアウトを読む<br>復習：コミュニケーションをふりかえり展望する   |
| 12 | 言葉と社会（1）        | ここまで学んできたトピックの中から興味のあるテーマを選び、使用観察・分析を試みる                        | 期末発表の準備                                  |
| 13 | 言葉と社会（2）        | これまでのトピックについて、身近な課題を発見し、発表を通してディスカッションする（期末発表）                  | 予習：発表準備<br>復習：発表ふりかえり                    |
| 14 | 言葉と社会（3）        | これまでのトピックについて、身近な課題を発見し、発表を通してディスカッションする（期末発表）                  | 予習：発表準備<br>復習：発表ふりかえり                    |
| 15 | まとめ             | 今学期の学びを総括し、レポートとしてまとめる準備をする。                                    | 予習：期末レポート準備<br>復習：ふりかえり                  |